

6つの戦略プロジェクトの展開

1 21世紀のちば経済活性化戦略の展開

〔1〕リーディング産業の集積促進

- (1) かずさバイオコンビナート事業 補正予算額 78 百万円
(既定予算とあわせ 96 百万円)
国のプロジェクトとして実施している「地域新生コンソーシアム研究開発事業」において確立した水酸化酵素の発現ライブラリー構築技術を活用して、産業上有用な酵素の発現ライブラリーを蓄積することにより、医薬・化学製品などへの事業化を促進します。
- (2) かずさDNA研究所実用化研究推進事業【新規】 補正予算額 70 百万円
かずさDNA研究所における、これまでの植物及びヒトに関する研究成果を活用して応用研究に取り組み、産業化・実用化を目指します。
- (3) 大学を核としたまちづくりモデル事業【新規】 補正予算額 41 百万円
東葛飾北部地域において産学官が連携して、ITなど先端研究分野関連の新産業創出とまちづくりの一体的な取組を推進します。
- (4) 新エネルギー産業振興事業【新規】 補正予算額 6 百万円
本県の新エネルギーの現況を分析調査し、「新エネルギー産業の集積促進に向けたプラン(仮称)」を策定するとともに、民間企業が実施する燃料電池等の実証実験などへの協力体制の構築を図ります。
- (5) 知的財産戦略総合支援事業 補正予算額 27 百万円
知的財産に関する中小企業の切実なニーズに対応するため、知的所有権センターに総合相談窓口を常設するとともに、各企業への専門家の派遣等により、知的財産の総合的な支援体制を構築します。

〔 2 〕 多様な地域産業の活性化

- (1) 「ちば中小企業元気戦略（仮称）」構築事業【新規】 補正予算額 2 百万円
今後の経済社会環境の変化を見据えた中小企業振興のための中長期的な戦略としての条例及び振興指針を県民参加により策定します。
- (2) 「千産千消推進型」商業活性化実験事業【新規】 補正予算額 1 百万円
空き店舗を活用した県産品直売や、高齢者向け宅配サービス、インターネット等を利用した通信販売についての研究・実証実験を行い、商店街のにぎわいを促進するためのビジネスモデル（「まちの駅」）を提案します。
- (3) 「草の根福祉推進型」商店街活性化モデル事業【新規】
補正予算額 10 百万円
商店街のにぎわい回復の観点から、子育てサービスや高齢者交流等のためのコミュニティ施設、高齢者や障害者によるコミュニティビジネス等の地域福祉に係る施設の設置・運営について、空き店舗を活用して行う商店街の取組を支援します。
- (4) 大型店と商店街が共棲を目指すモデル事業【新規】 補正予算額 2 百万円
商店街を構成する中小商店とチェーン店、大型店等との連携のあり方に関する研究を行い、その研究結果をもとに共棲モデル事業の実証実験を行うことにより、共棲モデルの提案を行います。
- (5) 地域生活創造ビジネス ソーイング（種まき）事業
補正予算額 16 百万円
産学官連携による研究会等が提案する「医療・福祉」、「環境」、「ビジネス支援（教育）」等の地域生活創造ビジネスを対象とするプロジェクトを公募・選定し、そのプロジェクトを支援することにより、新たなビジネスの育成を図ります。
- (6) 地域生活創造ビジネス ステップアップ事業 補正予算額 8 百万円
コミュニティビジネスなど地域の資源を活用した地域生活創造ビジネスに対し、起業の各段階において一貫したきめ細かなサポートを行うことにより企業化を支援します。

〔 3 〕 総合的な就業支援と産業人材の育成

- (1) 企業の次世代育成支援対策の取組み促進事業(“社員いきいき！元気な会社”推進事業)【新規】 補正予算額 16 百万円

次世代育成支援対策として、仕事と生活のバランスのとれた働き方や、仕事と育児の両立など、ライフステージに対応した意欲と能力が発揮できる雇用環境づくりについて、企業の主体的な取組を促進します。

- (2) 障害者就労モデル事業 補正予算額 4 百万円

障害者雇用に関する優れた理念を持ち先進的なノウハウを無償で提供できる民間企業と、新たな障害者就労の場を開業する意欲を持つ事業者等を公募のうえ選定、マッチングし、障害者就労モデル事業を県内に展開することにより、障害者の自立型就労の促進を図ります。

- (3) シニア世代の人材活用の促進【新規】 補正予算額 5 百万円

団塊の世代が退職期を迎えることに備えて、「退職後の団塊の世代の就業意識」や「企業側の雇用意向」を調査し、団塊の世代の就業意識等を把握することにより、今後のより効果的な人材活用策を検討します。

2 観光立県千葉の実現

〔1〕ちばの魅力（ちから）を発信する観光地づくり

- (1) 観光立県千葉モデル推進事業 補正予算額 30 百万円
(既定予算とあわせ 80 百万円)

長期的な視点に立った先進的、魅力的観光地づくりを進めるため、地域が主体となって行うリーディングプロジェクトを支援します。

- (2) 新観光資源創出事業【新規】 補正予算額 21 百万円

映画・ドラマのロケ地に着目したフィルムツーリズムの推進、地域の歴史・文化の観光資源としての活用を新たに図るとともに、本県観光の大きな柱である「花」について更なる発展を目指した花文化フォーラムを開催します。

- (3) 千産の逸品創出事業 補正予算額 10 百万円
(既定予算とあわせ 13 百万円)

千葉の「食」の魅力をアップさせるために、新たな土産品等の開発を支援する「逸品創出スクール」の開催や「食を活用した集客」に関する宿泊施設等の研究会に対する専門家派遣により、豊富な千葉の産物を活用した逸品や料理の開発を促進します。

- (4) 参加体験型観光推進事業 補正予算額 12 百万円
(既定予算とあわせ 15 百万円)

参加体験型観光を紹介するパンフレット、教育関係者向けティーチャーズガイドを製作し、集客促進を図るとともに、自然体験活動リーダーの養成など受け入れ体制の充実を図ります。

- (5) グリーン・ブルーツーリズム千葉からの情報発信事業

補正予算額 4 百万円

旅行業者及び旅行関係マスコミの方々に食・農山漁村地域のモニター体験を通じた情報発信を行ってもらうとともに、地域特性に応じた食・農・漁体験メニューづくり等を行います。

- (6) 「千葉の海」丸ごと満喫事業 補正予算額 1百万円
(既定予算とあわせ 3百万円)
「千葉の海」丸ごと満喫プランの策定、漁家民宿のサービス向上研修を開催するとともに、地魚を味わうキャンペーン、バスツアーとタイアップした体験ツアーを設定するなど、PR活動を行います。
- (7) 周年型観光農業産地づくり支援事業【新規】 補正予算額 6百万円
周年型観光農業を確立するために、研修会、検討会を開催するとともに、年間を通じて観光客に提供できる作物の組み合わせの検討や新たな作物、作型の栽培試験を行い、観光農業産地を育成します。
- (8) エコツーリズム推進事業【新規】 補正予算額 2百万円
宿泊施設などの省エネ・省資源の取組みの推進、地域にとっての自然の価値の見直し、観光客のゴミなどによる環境への負荷の低減策等、エコツーリズムの具体化に向けたシンポジウム等を開催します。
- (9) 観光ボランティアガイド育成事業 補正予算額 1百万円
地域紹介・観光ボランティアガイドを目指す人や既に活動している人のネットワーク形成の場を設けるとともに、ガイド技術の向上を図る講座を開講します。
- (10) くつろぎと安らぎの宿育成事業 補正予算額 2百万円
おもてなし改善マニュアルの更新を行い、これを核にしたおもてなしを推進するリーダーを養成する研修会と、顧客満足度向上研究会を開催し、くつろぎと安らぎの宿を育成します。
- (11) 誰もが訪れやすい観光地づくり促進事業 補正予算額 16百万円
「ユニバーサルツーリズム」の具体的な検証のため実証実験を行い、誰にでもやさしい観光地づくり実現のためのマニュアルを作成します。

- (12) 観光地アクセス環境改善モデル事業【新規】 補正予算額 10 百万円
夏期観光シーズンにおける幹線道路の渋滞の解消を図るため、交通量、渋滞状況、迂回路などの情報を観光客に発信するなど渋滞対策の実証実験を行い、地域が主体的に観光地へのアクセス環境改善に取り組めるようなモデルを提示します。

〔 2 〕 総合的なプロモーション活動の推進

- (1) 外国人観光客向けプロモーション事業 補正予算額 26 百万円
(既定予算とあわせ 30 百万円)
訪日外客数の多い東アジア3国(台湾、韓国、中国)を重点的外客誘致対象国として、海外で開催される国際観光展への出展、海外旅行社・メディア等の招請、修学旅行の誘致等の観光プロモーションを行い、観光客を誘致します。

- (2) 外国人観光客受入体制整備事業 補正予算額 21 百万円
外客来訪促進計画の策定、外国人観光客の利便性・移動性の向上のための情報発信を行うとともに、国際観光モデルコースの案内板の整備を行います。

- (3) 観光千葉ブランド発信事業 補正予算額 15 百万円
本県観光のイメージアップを図るとともに、その定着を図るため、関東近県で海のない地域向けに観光情報番組の提供や2005年千葉きらめき総体の参加者や観客向けの観光ガイドブックの配布など、本県の魅力を効果的に情報発信します。

〔 3 〕 新たな観光産業育成支援の充実

- (1) ふさの国観光みらい塾事業 補正予算額 3 百万円
地域の観光地づくりを主導するリーダーを育成するため、若手の観光関連事業者を対象に経営と観光地活性化に関する講座を開講します。

- (2) 観光統計整備事業 補正予算額 9百万円
旅行者に対するアンケート調査を実施することにより、観光の地域経済への波及効果を推計し、今後の観光施策立案の基礎資料とします。
- (3) 観光産業経営アドバイザー派遣事業 補正予算額 1百万円
観光産業全体のレベルアップを図るために、経営状況の改善や経営の革新を図ろうとする観光関連事業者にアドバイザーの派遣を行います。
- (4) 観光フロンティア推進事業【新規】 補正予算額 13百万円
観光立県ちば推進協議会などからの提言・意見を踏まえ機動的な施策展開を図るため、関係機関等との密接な連携・協力のもと、施策の実効性・実現可能性に係る調査分析や実証実験等、実現に向けた方策の検討を進めます。
- (5) 観光立県総合推進事業 補正予算額 3百万円
(既定予算とあわせ 4百万円)
県内各地域の観光事業者、地域住民、NPO、自治体等が連携協力した観光地づくりの取組みが円滑に進むように、課題解決に資するテーマを設定したシンポジウムを開催するなど、地域全体の意識醸成を図ります。

3 日本一の安心農林水産物「千葉ブランド」の確立

〔1〕千葉ブランド、安心な「ちばエコ農産物」などの安定的な生産

(1) 「おいしさ一番乗り」千葉の米づくり運動推進事業

補正予算額 10 百万円

(既定予算とあわせ 16 百万円)

早場米産地としての特性を活かした「消費者に選択される米づくり」を推進するため、新たに開発した中生の有望品種「ちば28号」を早期に広く県下に普及し、本県産米の安定的な需要確保を図ります。

(2) 種子なしピワ「希房」の早期定着実証事業

補正予算額 1 百万円

(既定予算とあわせ 11 百万円)

世界初の種子なしピワ「希房」について、栽培技術の確立と経営成果の検証を行うとともに、成果の普及・PRに努め、早期に産地定着を図ります。

(3) みんなで支える千葉県型集落営農支援普及活動事業【新規】

補正予算額 5 百万円

個性的で活力のある地域営農や産地化を実現するため、水稻をはじめ、野菜や果樹、花きなどの産地の育成及び強化、耕畜連携による資源循環型農業の確立など、幅広い視点をもって集落住民が自ら行う集落の将来ビジョンの策定等に対して支援を行い、集落住民の創意工夫による集落営農を推進します。

(4) 放牧活用実証展示事業【新規】

補正予算額 6 百万円

安全・安心な畜産物を求める県民ニーズに応えるため、遊休農地や里山を活用し、本県の実情に即した放牧を中心とした牛の飼育方法を検討し、有機畜産物JASに対応した放牧技術の確立を図ります。

- (5)「ちばエコ農業」産地拡大スピードアップ支援事業 補正予算額 6百万円
(既定予算とあわせ 15百万円)

「ちばエコ農業」の産地及び品目拡大のスピードアップを図るため、地域に即した技術開発試験、エコ農業に取り組んでいる生産者の組織化、「ちばエコ農業」栽培技術指針の作成、生産・販売の専門的知識を有したアドバイザーの設置等を行います。

- (6)農林業ビジネスチャンス創生事業 補正予算額 18百万円

千葉県農業の活性化を図るため関連産業や異業種と協調連携し、商品開発やインターネット等を活用した販売促進、見本市・商談会の開催等を行います。

〔2〕新鮮でおいしい千葉の魚のブランド化

- (1)味の交差点構築事業【新規】 補正予算額 4百万円

千葉のさかなを生かした全国に誇れる「千葉の味」を作るため、味の関係者が交流する場を設けるとともに、県内のさかなや味に関する情報の収集・提供を行い県産水産物の消費拡大を図ります。

- (2)地魚一番 in 千葉事業 補正予算額 5百万円
(既定予算とあわせ 6百万円)

千葉県内で漁獲、水揚げされた魚(地魚)について、イベントへの出展による消費拡大PR、付加価値を高めるための加工品開発等により、県内の漁業、水産加工業の活性化と千産千消を推進します。

- (3)消費地への水産物直送体制推進事業 補正予算額 12百万円

県内漁港に朝水揚げされた高鮮度の水産物を、その日のうちに都市部の消費者に届ける直送試験を行い、定着化を目指します。また、都市部への直送販売活動の支援を行います。

- (4) 養殖魚ブランド化推進事業【新規】 補正予算額 2百万円
消費者に安心な養殖魚を提供するため、養殖魚の生産履歴の記帳を促進するとともに、これらの情報をインターネット等を利用して情報提供を行うことにより、養殖魚のブランド化を推進します。

〔3〕千産千消、千産全消のための流通体制の確立

- (1) 千産千消ネットワーク推進事業 補正予算額 5百万円
千葉県産農産物を消費者が欲しい時に、いつでも手に入れられる供給体制づくりの一環として、青果加工センターの稼動に合わせ、集配送センターと情報基盤の整備を促進し、加工農産物を含めた流通システムの構築を図ります。

- (2) 「千葉ブランド」販売店設置事業 補正予算額 3百万円
県産農産物のブランド化を目指し、その象徴である「ちばエコ農産物」の販路拡大と有利販売のため、「千葉ブランド販売店」を設置し、消費者の認知度アップと利便性の向上を図ります。

- (3) 「食と匠の競演」モデル事業【新規】 補正予算額 40百万円
料理人と生産者の意見交換・交流を通じて、料理メニューを開発し、作成したメニューをとおして県産農水産物及び産地のPRを行います。

- (4) 「サンプスギ」ブランド化推進事業【新規】 補正予算額 28百万円
千葉のブランド木材であるサンプスギについて、生産・流通・消費の一連の流れを構築するとともに、サンプスギ材を使用した家屋のモニター調査、木材市場の見学会等を行い千産千消を推進します。

(5)「ちばの農林水産物」瞬間・旬感購入検索ガイド事業【新規】

補正予算額 3百万円

一般の消費者がインターネットを通じて広く県産農林水産物の魅力を知り、欲しいと思った時すぐに購入情報が入手できる環境を整備し、より一層の千産千消及び千産全消を推進します。

(6)「千葉ブランド」農産物輸出支援事業

補正予算額 7百万円

県産農産物の新たな市場をアジア諸国等の海外へ展開するため、海外向け商品の開発や海外の量販店における販売促進活動等を行います。

〔4〕食育の推進・生産者と消費者相互の理解と信頼の確立

(1)ちば食育活動促進事業

補正予算額 14百万円

子どもたちに「食」や「農」に対する正しい知識を教え、健全な食生活の実現を図るため、食育ボランティア・サポート企業を通じた啓発活動を実施するとともに、食育ボランティアが地域の独自の「食育活動」を展開するための組織づくりを支援します。

(2)カムカム歯っぴースクスクちばっ子事業【新規】

補正予算額 2百万円

乳幼児の噛む力の育成を図るため、食事の与え方や量・食材などについて、妊婦及び乳幼児の母親向けのリーフレットの作成配布や、歯科保健担当者、保育士等を対象とした研修会を開催します。

(3)「ちばエコ農産物」トレーサビリティシステム推進事業

補正予算額 36百万円

「ちばエコ農産物」におけるトレーサビリティシステムの構築のため、県内生産者団体等を対象に、生産履歴情報の管理システム等の導入支援を行います。

また、電子タグ等を活用したトレーサビリティシステムの産地への導入実験を行います。

(4) 豚トレーサビリティモデル事業

補正予算額 12 百万円

生産者等が実施する豚のトレーサビリティシステム構築に必要な、情報管理機器の整備やシステム開発を支援し、安全・安心な豚肉の供給と、「千葉ブランド」の確立を図ります。

(5) 農薬の正しい知識啓発事業【新規】

補正予算額 3 百万円

消費者へ農薬についての正しい知識を啓発し、家庭菜園等における適正な使用とともに、農産物の安全性及び農業への理解促進を図ります。

4 「健康づくりふるさと構想」の推進

〔1〕健康生活コーディネーター事業の全県的な展開

- (1) モデル事業実施市町村支援事業 補正予算額 30百万円
市町村等が地域住民に対して、健康生活コーディネーター事業の実施に必要な支援を行うため、新規モデル事業実施市町村等に対して事業に必要な運動器具等の購入費用の一部を助成します。
- (2) 小型IT機器活用健康づくり事業 補正予算額 13百万円
参加者の日々の健康づくり活動の状況を継続的に把握・記録し、データベースに送信する小型IT機器等をモデル市町村等を通じて参加者に貸与します。
- (3) 健康生活コーディネーター個別提示事業 補正予算額 89百万円
(既定予算とあわせ130百万円)
平成16年度に事業を開始した4つのモデル市町に加え、平成17年度はさらにモデル市町村を拡大し、事業を展開します。モデル市町村には、県が育成した健康生活コーディネーターを派遣し、参加者一人ひとりの状況に応じた健康づくりの目標設定と目標達成に向けた行動等を提案します。
- (4) 健康生活コーディネーター事業の民間展開モデル事業【新規】
補正予算額 18百万円
地域住民の健康づくりに意欲があり、事業に必要な人材や施設等を有する民間事業者(社会福祉法人、フィットネスクラブ等)を公募し、健康生活コーディネーター事業の実施を支援します。
- (5) 健康情報データシステム構築事業 補正予算額 13百万円
(既定予算とあわせ36百万円)
健康生活コーディネーター事業において、参加者の健康データを継続的に蓄積し、併せて参加者自身が蓄積された自らのデータを、希望するときいつでも引き出すことができるデータベースシステムを引き続き運用します。あわせて、システムの改良等を図ります。

- (6) 健康生活コーディネーター育成事業 補正予算額 25百万円
(既定予算とあわせ52百万円)

一人ひとりの健康生活を、運動・栄養・精神保健にわたりコーディネート(総合調整)する「健康生活コーディネーター」の育成研修やフォローアップ研修を実施します。また、健康生活コーディネーター育成研修を、受講者が受けやすいシステムとするため、「e-ラーニング(パソコンやインターネットを活用した学習方法)」による研修を導入します。

- (7) 健康づくり評価・分析事業 補正予算額 21百万円

科学的根拠に基づく健康づくりを進める観点から、健康づくり事業の参加者と非参加者の経年的な健康状況等の変化について統計的に比較し、健康生活コーディネーター事業の効果について評価・分析を行います。

- (8) 健康づくりふるさとちば普及啓発事業 補正予算額 19百万円

「健康づくりふるさと構想」の平成16年度における実績を踏まえ、シンポジウム及び講演会を県内で開催するほか、事業を広く周知するための広報を行います。

〔 2 〕「健康づくりふるさと構想」の総合的展開

- (1) 千葉県型介護予防モデル開発事業【新規】 補正予算額 25百万円

健康生活コーディネート事業の対象を要支援・要介護(軽度)者に拡大するため、16年度に開発した健康生活コーディネートプログラムについて、介護予防への活用可能性を検証するための実証試験を実施し、千葉県独自の介護予防モデルを開発します。

- (2) 産学連携による新たな健康づくり事業化支援事業【新規】

補正予算額 16百万円

新たな健康サービスの創出を促進し、健康づくりの多様化を図るため、県内の大学等と民間事業者が連携して行う科学的根拠に基づく健康づくりサービスの事業化(検証事業、モデルプロジェクト)を支援します。

(3) 健康と癒しの森 / 障害児・者への森林療法効果測定事業

補正予算額 18 百万円

森林を活用した健康づくりを推進するため、森林療法に関する研究を通して、森林内の散策、環境教育などを取り入れた健康増進プログラムを作成します。

また、森林や都市緑化の中での活動が障害者の心理・身体に与える影響を医療・福祉及び環境の面から把握するとともにその有効性を検証し、森林療法をプログラム化します。

5 安全・安心な生活空間づくり

〔1〕県民一人ひとりの防犯意識の向上

- (1) 安全安心まちづくり推進事業 補正予算額 5百万円
(既定予算とあわせ 5百万円)

条例と条例に基づく各種指針等について、パンフレット等の街頭キャンペーンでの配布、新たに作成する防犯ハンドブックの千葉県安全安心まちづくり推進協議会等を通じた配布など、各種の広報活動を通じて普及啓発を推進します。

- (2) 犯罪発生情報等の提供事業 補正予算額 6百万円
(既定予算とあわせ 8百万円)

県民の自主防犯意識を高めるため、警察本部のホームページに掲載している犯罪発生情報に、女性・子どもの安全確保につながる不審者による声かけなどの不審者出没情報を加えます。また、県のホームページからでも見られるようにします。

〔2〕良好な地域コミュニティづくりの推進

- (1) 安全安心まちづくり自主力(みんなのちから)防犯対策支援事業【新規】
補正予算額 20百万円

住民自らが企画して行う地域診断や安全マップの作成などの防犯活動に対し、その計画段階から市町村に加え警察、県等がアドバイスをするとともに、助成します。また、市町村が地域の防犯活動を促進させるために行う事業にも同様に支援を行います。

- (2) 自主防犯団体の施設等に対する支援事業 補正予算額 4百万円

地域住民の自主防犯活動の拠点で、「地域防犯情報センター」として指定を受けた施設等に対して、パトロールに必要な備品、多機能電話などを貸与、提供し、自主防犯活動の取組を支援し、その活動拠点としての機能の充実を図ります。

- (3)(仮称)菜の花ユニバースによる防犯対策事業【新規】 補正予算額 3百万円
県内の成人大学生によりボランティアグループ「(仮称)菜の花ユニバース」を結成し、地域住民と協働したパトロール等を行うことで、若者らの防犯意識の向上、将来の地域ボランティアリーダーの育成を図るとともに、地域の防犯活動の活性化にも寄与します。

〔3〕防犯に配慮した環境の整備

- (1) 街頭緊急通報システム整備事業 補正予算額 30百万円
(既定予算とあわせ 32百万円)
事件に遭遇した場合に、現場から警察に通報する緊急通報システム(スーパー防犯灯)を柏市内に整備します。

〔4〕犯罪被害者支援の促進

- (1) 被害者支援活動の促進事業 補正予算額 1百万円
(既定予算とあわせ 5百万円)
犯罪被害者等の支援活動を推進するため、関係者向けの手引書を作成します。また、相談や支援内容等を一括掲載したパンフレットを作成し、犯罪被害者へ情報を提供します。

6 みんなでつくる新しい地域社会

〔1〕新しい住まいの場・生活の場・子育ての場の確保

(1) 県営住宅を活用した新たな地域づくりのためのニーズ調査事業【新規】

補正予算額 5百万円

県営住宅の建替えや新設等を契機に、地域の声に応じた地域貢献型の県営住宅をモデル的に整備していくため、地域における福祉ニーズのアンケート調査を実施します。

(2) 重度・重複障害者等グループホーム運営事業補助【新規】補正予算額 7百万円

重度・重複障害者や医療的なケアが必要な障害者が入居し、生活をするグループホームの運営に要する経費を助成し、障害者の社会参加の促進を図ります。

(3) 障害者グループホーム等支援事業【新規】補正予算額 14百万円

知的障害者及び精神障害者グループホーム等の入居者や、グループホーム世話人等への助言・支援等を実施するため、支援ワーカーを配置します。

(4) マディソンモデルを活用した精神障害者の地域社会への移行モデル事業【新規】

補正予算額 17百万円

重度の精神障害者を含めた長期入院患者の退院促進を円滑に進めるとともに、新たな長期入院の発生を防止するため、精神障害者を地域で支える仕組みのモデルづくりを行います。

(5) 障害者に対する差別をなくすための事業【新規】補正予算額 2百万円

障害者差別に該当すると思われる事例の分析等を通じて、条例の制定をはじめ、障害者差別をなくす方策を検討するとともに、パンフレットの作成等差別をなくすための啓発広報を行います。

(6) 障害児タイムケア事業【新規】補正予算額 6百万円

障害児を介護する親が安心して子育てをするため、市町村が行う障害児の短時間の預かりなどの事業に必要な費用を助成し、子供を安心して預かってもらえる場所を確保します。

(7) 家族再統合プログラム作成事業【新規】 補正予算額 4百万円
家族の養育機能の再生・強化を目指し、被虐待児童のケア、保護者への指導及び虐待を行った保護者と被虐待児童との関係を修復するプログラムについて検討します。

(8) まっ白い広場(プレーパーク)づくりモデル事業【新規】補正予算額 20百万円
既存の与えられた公園等ではなく、子どもたちが想像力を生かし、自分たちの責任で、異年齢の子どもたちとも群れて自由に遊ぶことができる遊び場を、県のモデル事業として推進します。

〔2〕サービス供給、就労支援、経済再生の一石三鳥を達成

(1) 新たな地域福祉像の実現支援事業 補正予算額 81百万円
地域の特性に応じた福祉サービスの提供環境の整備や地域の福祉ニーズに即した在宅福祉サービス等の充実を推進する事業を支援します。また、公的福祉サービス外のサービス供給事業所の設置支援を行い、小域福祉圏ごとに県内800から1,000箇所のサービス提供事業所を創出することを目指し、事業創出のための相談員の派遣や、サービス提供者を養成します。

(2) 千葉県障害者就労事業振興センター(仮称)の設立を支援する事業【新規】
補正予算額 18百万円
障害者が、地域で経済的に自立した生活を実現するため、千葉県障害者就労事業振興センター(仮称)の設立支援を行い、福祉作業所の収益力を強化し、障害者賃金等の向上を図ります。

〔3〕総合コーディネーター機能等の充実

(1) 地域総合コーディネーター育成研修事業【新規】 補正予算額 1百万円
中核地域生活支援センターの地域福祉コーディネーターが、地域における必要な諸サービスを総合的にコーディネート(調整・組立・支援)する役割を担っていけるよう、実践力を育てる研修を実施します。

(2) 中核地域生活支援センター「就労支援ワーカー」配置モデル事業【新規】

補正予算額 1百万円

中核地域生活支援センターのコーディネート機能を生かして、職業安定所や障害者就業支援キャリアセンター等の各地域における社会資源との連携の下に、各圏域の実情に応じた就労支援を行うため、就労支援ワーカーの活動モデル事業を実施します。

(3) 中核地域生活支援センターと県弁護士会のタイアップモデル事業【新規】

補正予算額 1百万円

法的な知識が必要となる権利擁護等の相談について、県弁護士等の応援を得ながら進めていく事業をモデル的に実施します。

(4) 子育て応援人材バンクづくり支援事業【新規】

補正予算額 3百万円

地域の子育て力を強化するため、市町村が実施する子育て支援者の養成と子育て人材の確保、並びに、子育て支援者の活用を促進するための子育て関係機関等のネットワークづくりなど、市町村の総合的な人材育成を支援します。

(5) 子育て相談・情報提供事業【新規】

補正予算額 4百万円

保健・保育・教育等各分野にまたがる子育て情報等について、効率的に行政サービスを提供するため、子育てに関する各種施設や相談機関をはじめ、子育てに役立つ地域の情報等を収集し、行政機関や保育所、住民活動団体・NPO等、子育て相談を実施している機関での活用を図ります。

(6) 「健康福祉千葉方式」の新世代リーダーを育成する事業【新規】

補正予算額 2百万円

「健康福祉千葉方式」と「千葉県地域福祉支援計画」の考え方を広く県民に伝え、実践に導くとともに、将来に向けて、県の健康福祉施策推進の中心的役割を担う人材（健康福祉千葉方式新世代リーダー）を民間の中から育成します。

(7) 福祉サービス第三者評価モデル事業【新規】

補正予算額 5百万円

福祉サービスの向上と利用者の良質なサービスの選択を支援するため、すべての福祉サービスを横断的、包括的な情報開示・第三者評価システムを構築します。

〔４〕地域の自発的取組による地域力の向上

（１）子育て地域力強化モデル事業【新規】 補正予算額 26 百万円

千葉県次世代育成支援行動計画の基本理念である、「地域みんなで子どもと子育て家庭の育ちを支える」という考え方を普及し、事業の実効性を確保するため、市町村が中心となっていく地域力強化の取組で、地域の主体的な取組のモデルとなるものに対して助成します。